



熊澤一衛名誉教授

熊澤一衛名誉教授 年譜・著作目録

〈年 譜〉

- 1963年3月 東京大学文学部仏文学科卒業
1966年3月 東京大学大学院人文科学研究科仏語仏文学専攻修士課程修了（文学修士）
1967年9月 フランス政府給費留学生としてリヨン大学留学
1970年7月 同上帰国
1971年3月 東京大学大学院人文科学研究科仏語仏文学専攻博士課程中途退学
1971年4月 広島大学教養部講師（至る1975年9月）
1975年10月 広島大学総合科学部助教授（至る1990年9月）
1990年10月 広島大学総合科学部教授（至る1991年8月）
1991年9月 名古屋大学言語文化部教授（至る2002年3月）
1998年4月 名古屋大学大学院国際言語文化研究科担当（至る2002年3月）
2002年4月 名古屋外国語大学外国語学部教授（至る2014年3月）
2002年5月 名古屋大学名誉教授
2003年7月 名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科長（至る2014年3月）
2015年4月 同 名誉教授

◇所属学会および活動

- 1971年4月 日本フランス語フランス文学会会員（至る2015年3月）
1976年6月 日本フランス語フランス文学会語学教育委員会委員、あり方検討委員会委員、学会誌編集委員（至る1999年）
1997年4月 大学評価、学位授与機構審査会専門委員
1999年4月 大学評価・学位授与機構専門委員（フランス語フランス文学部門）（至る2005年）
2003年4月 日本フランス語教育学会会員（至る2015年3月）

〈著作目録〉

著書

- 『フランス詩法』（マザレラ著、共訳）海出版社 1988年
『ヴォルテールとフローベール』（単著）駿河台出版社 1990年
『世界シンボル大事典』（シュヴァリエ、ゲールブラン著、共訳）大修館書店 1992年
『ヴォルテールの現代性』（レイモンド・モリゾー著、単訳）三恵社 2008年
『フランス文学と死生観』（単著）駿河台出版社 2014年

学術論文

- 「Flaubertの“感情教育”(初稿)をめぐって」(単著)『フランス語フランス文学』No.11 1967年
- 「フローベールとヴォルテール」(単著)『広大教養部紀要Ⅰ』外国文学研究 vol. XIX 1973年
- 「古典精神とロマン精神」(単著)『広大教養部紀要Ⅰ』外国文学研究 vol. XX 1974年
- 「Albert Camusと自然」(単著)『広大総合科学部紀要Ⅴ』言語文化研究 vol. I 1976年
- 「ブーヴァールとペキュシェの意味について」(単著)『広大総合科学部紀要Ⅴ』言語文化研究 vol. III 1978年
- 「Micromégasの分析」(単著)『広大総合科学部紀要Ⅴ』言語文化研究 vol. VI 1981年
- 「Le monde comme il vaの分析」(単著)『広大総合科学部紀要Ⅴ』言語文化研究 vol. VII 1982年
- 「Zadigの分析」(単著)『広大総合科学部紀要Ⅴ』言語文化研究 vol. IX 1984年
- 「Des caractéristiques de l'Ingénu」(単著)『広大総合科学部紀要』言語文化研究 vol. X 1985年
- 「Voltaireと喜劇」(単著)『広大総合科学部紀要』言語文化研究 vol. XI 1986年
- 「Le Bourgeois gentilhommeと二人の批評家」(単著)『フランス文学』No. 16 1986年
- 「十八世紀へのアプローチーフーラスチェの場合」(単著)『広大総合科学部紀要』言語文化研究 vol. XII 1987年
- 「ヴォルテールとローマ史」(単著)『広大総合科学部紀要Ⅴ』言語文化研究 vol. XII 1988年
- 「ヴォルテールと政治思想」(単著)『広大総合科学部紀要Ⅴ』言語文化研究 vol. XIV 1989年
- 「ボードレールとアホウ鳥」(単著)『英詩評論』第6号 1989年
- 「ヴォルテールの死生観ーデファン夫人への手紙」(単著)『名大言語文化部言語文化論集』XV 第1号 1993年
- 「現代のars moriendiーモーロアとモーラン」(単著)『名大言語文化部言語文化論集』XX 第2号 1999年
- 「『往生術』訳 注 解題」(単著)『名古屋外国語大学外国語学部紀要』24号 2002年
- 「現代フランス人の死生観」(単著)『名古屋外国語大学外国語学部紀要』29号 2005年
- 「現代日本人の死生観の形成:仏教の役割と提言」(単著)『名古屋外国語大学外国語学部紀要』37号 2009年

その他

- 「生きたフランス語文法」(共著) 白水社 1979年
- 「小学館ロバール仏和大辞典 200見出し語担当」(共著) 小学館 1988年
- 「『百科全集』とその時代展 解題執筆 モンテスキュー, ヴォルテール, ルソー担当」(共著) 名古屋大学図書館 1999年
- 『名古屋外大のフランス語』三恵社 2007年
- 『名古屋外大のフランス語』第2版 三恵社 2012年

献 辞

熊沢一衛先生は、2002年に名古屋大学を退官後、本学にご就任、2003年より12年にわたりフランス語学科長として学科運営に尽力されました。2015年3月31日をもって名古屋外国語大学教授を退任され、同年4月1日付けで名誉教授の称号を授与されました。

ご研究につきましては、1967年に学会誌『フランス語フランス文学』に掲載された「Flaubertの“感情教育”(初稿)をめぐって」を初め、多数にのぼります。その業績のすべてをここで紹介することは到底できません。ただ、2014年に出版されました『フランス文学と死生観』には、熊沢先生の長年の研究成果が凝縮されているように思います。先生は本書で、『ローランの歌』からアルベール・カミュまでの長いスパンをもって、フランス文学における死生観を俯瞰していらっしゃいます。モンテーニュ以後、「いかに死ぬか」から「いかに生きるか」という発想の転換が起きたと言われますが、本書は「死生観」という重いテーマを考える一つの道標となる専門書と評価されています。

私が初めて熊沢先生にお目にかかったのは、もう20年以上前のことになります。大学院生として先生のフランス語の授業を受講させていただいたのと、日本フランス語フランス文学会での仕事を一緒にしたのがきっかけでした。当時の熊沢先生は、常に厳めしい表情を浮かべられ、「何か怒っていらっしゃるのでは？」と疑心暗鬼となる場面も少なからずありました。ですから、本学でお見せになる、初対面の方にも思わず「クスリ」と笑わせてしまう表現力やjeux de mots(いわゆる駄洒落)を披露されるお姿は、「もしかしたら別人？」とこれまた疑ってしまうほどの変身ぶりです。それは単に機知に溢れた面白さということではありません。17世紀の喜劇作家モリエールのように、道化を演じるいわゆる真剣さが感じられるのです。そのようなところには、やはり以前の熊沢先生のお姿を垣間みる気が致し

ます。

いつも熊沢先生に驚かされましたのは、多方面において博学でいらっしゃることです。専門の文学や思想は当然のことながら、その範囲は、政治、経済、社会、芸術におよび、各専門家とも対等に渡り合っている姿にはいつも尊敬の念をいだいておりました。中でもクラシック音楽に造詣が深く、ご在職中にもっともっと音楽の話をお伺いすべきだったと今少し後悔しています。ちなみに、先生の一番好きな曲はドヴォルザークの「チェロ協奏曲」です。

熊沢先生がお一人で提携校であるスタンダール・グルノーブル第3大学を表敬訪問された際、ニースの研修地で留守番をしていた私に、ポール・ヴァレリーの詩集をお土産として買ってきてくださいました。先生のお好きな言葉がこのヴァレリーの詩集に収められていたことを知ったのはつい最近のことです。最後にこちらの一節を紹介します。

O récompense après une pensée

Qu'un long regard sur le calme des dieux !

(おお、一時の思索のあとの報いか 神々のこの静寂への長い眼差しよ！)

熊沢先生の長年にわたるご指導に深く感謝し、今後のますますのご健勝と研究の進展を祈念して、深い惜別の情をもって献呈の辞とさせていただきます。

2015年4月1日

フランス語学科

大岩 昌子